

テーマ

# 第36回公開研究会 接近困難な利用者へのアプローチ

## ■ 内容 事例検討会

厚生労働省の調べによると、在宅介護世帯のうち、介護する側とされる側がどちらも60歳以上という世帯は、およそ6割を占める。老々介護や認知症高齢者の増加による認知介護の懸念が社会問題として大きくクローズアップされ、身近なところでどこにでもある当たり前の現象となってきています。

在宅療養では、家族が介護の担い手となることが多く、介護者の経験や自己流の介護方法により、専門職の助言や指導が受け入れられないことがあります。このような場合、専門的な知識や認識不足などからいずれ介護の破綻が予測されます。

ケアマネジャーとして、起こりうるリスクを防止し、介護者の理解と行動の変化がみられるようなアプローチの方法について検討していきたいと思います。

日時 **2015年5月14日 (木) 18:30～20:30** 受付 18:00～

会場 **日本福祉大学名古屋キャンパス** JR/名古屋市営地下鉄「鶴舞」駅 徒歩2分

講師

あらき あつし

**荒木 篤 氏** [笠松町地域包括支援センターセンター長兼主任介護支援専門員]

昭和63年、日本福祉大学社会福祉学部卒業。社会福祉法人笠松町社会福祉協議会 福祉活動専門員、笠松町総合在宅介護支援センターセンター長を経て、現在、笠松町地域包括支援センターセンター長兼主任介護支援専門員として勤務。

岐阜県居宅介護支援事業協議会理事、愛知県・岐阜県介護支援専門員の実務・現任研修の講師をはじめ、愛知県介護保険審査会委員も務める。平成21年、日本福祉大学 大学院 社会福祉学研究科 福祉マネジメント専攻 修士課程修了。

こんどう よしえ

**近藤 芳江 氏** [APPLE株式会社 取締役、介護支援専門員]

現在、APPLE株式会社 取締役 介護支援専門員として勤務。

一般社団法人愛知県社会福祉士会 権利擁護事業部 部長、愛知県介護支援専門員実務研修・更新研修演習講師、名古屋市介護保険認定審査会委員も務める。平成21年、日本福祉大学 大学院 社会福祉学研究科 福祉マネジメント専攻 修士課程修了。

## ■ 助言者

しらすわ まさかず

**白澤 政和 氏** [桜美林大学大学院教授、日本福祉大学客員教授、日本ケアマネジメント学会理事長]

日本で最初にケアマネジメントに関する論文や著書を書き、日本の土壌でのケアマネジメントを提唱し、日本型のサービス・デリバリー・システムの構築に貢献。在宅介護支援センターの創設や介護保険での介護支援専門員の創設に関わってきた。主な著書は、『キーワードでたどる福祉の30年』中央法規出版(2011年)、『地域のネットワークのつくり方ー地域包括ケアを推進するためにー』中央法規出版(2013年)、その他 介護保険、保健・医療・福祉の連携、ケアマネジメントに関する著書・論文多数。

受講料 **2,000円**

定員 **100名** ※先着順・定員に達し次第締切

対象 **ケアマネジメント業務に従事されている方  
医療・保健・介護・福祉の現場に携わる方**

主催 **日本福祉大学ケアマネジメント技術研究会**

ケアマネジメント技術研究会は、介護現場ですすめられているケアプラン、アセスメント、モニタリングなど、ケアマネジメントの実際について検討し、様々な問題や悩みを解決するためのケアマネジメントプロセス評価研究をすすめています。公開研究会はその研究活動の一環として開催するものです。

※この公開研究会は、日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャーの更新時の研修ポイントとなります。

